ファンタジスタ顆粒水和剤

1.試験目的 防除効果の確認。

2.対象病害虫 黄斑病、さび病、葉枯病、白斑葉枯病

3. 試験内容

(1)実施場所 西目屋村 大秋 (2)実施農家 農事組合法人にしめや

(3)実施支店 目屋支店 (4)担 当 者 天内 広二

(5)概 要

作 物 名 にんにく 品 種 白玉王

作 型 栽植密度 畦幅 <mark>120</mark> cm 株間 <mark>15</mark> cm

播種・定植日 <mark>播種</mark> ・ 15000 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月21日

(6) 計 類 類 数 a (試験区 15 a 対照区

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月18日	ファンタジスタ(顆粒水)	3,000	30 hn	6月18日	シグナムWDG	1,500	30 hy
	ベネビアOD	2,000	30 ۲۳		モスピラン(顆粒水)	2,000	30 hn
	カスミンボルドー(水)	1,000	30 hn		カスミンボルドー(水)	1,000	30 hh

4. 試験結果

(1)防除効果

1/19/19/W/W				
対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
	発生状況	試験区	対照区	
さび病	少ない	少ない	少ない	
葉枯病	少ない	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

15 a)

(3)農家の意見

両区とも病害の発生は少なかった。

5.評価

(1)資材の評価

/ 1				
項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果対象区と同等

対象区と同等

実用性 対象区と同等

(3)その他特記事項

使いやすさ



1.試験目的	防除効果の確	認。							
2.対象病害虫	黄斑病・さび	病・葉	枯病・日	白斑葉枯	i病				
3.試験内容 (1)実施場所	弘前市大和沂	Į		(2)実	² 施農家	やさい育	音苗セン	ター	
(3)実施支店	育苗係			(4)担	1 当 者	奈良	き 浩照		
(5)概 要 作物名	にんにく			品	占 種	畑園試系			
作 型				栽	植密度	畦幅 <mark>160</mark>	cm ‡	朱間 15	cm
播種・定植日	播種 •	9月15	日			(10a	当たり	14800	本)
マルチ使用	有			ЦУ	(穫始め	6月19日			
(6)試験構成 試験面積	30	a (記馬	倹区	15 a	対照区	15	a)	
	試験区					対照区			1
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬	剤名	倍数	a当 散布量	ĺ
5月3日 ファンク	アジスタ顆粒水和剤	3,000	150 ให้	5月3日	シグナムW	/ D G	1,500	150 ให้	i

4. 試験結果

(1)防除効果

アグリマイシン水和剤

ダイアジノン水和剤

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区	
さび病	少ない	少ない	少ない	
葉枯病	無	無	無	

1,000

1,000

(2)薬害の発生

1,000

1,000

アグリマイシン水和剤

ダイアジノン水和剤

無

(3)農家の意見

シグナムWDGは刺激的な匂いが気になるが、ファンタジスタは全く気にならない。

5.評価

(1)資材の評価

Ì		散布効果	宝田性	使いやすさ	総合評価	
		٨	×/11/L	(χV1 (- y C)	MO II IIII	l
	пТ ІЩ	4	4	4	4	l

(2)評価の理由

散布効果問題なし

実用性有

使いやすさ 同等

1.試験目的 防除効果の確認。 2. 対象病害虫 アブラムシ類、アザミウマ類、ネギコガ 3. 試験内容 (1)実施場所 西目屋村 大秋 農事組合法人にしめや (2)実施農家 (3)実施支店 目屋支店 (4)担 当 者

(5)概 要

作物名 にんにく 品 種 白玉王 作 型 栽植密度 畦幅 120 cm 株間 15 cm

(10a当たり 15000 本)

天内 広二

播種・定植日 播種 マルチ使用 収穫始め 6月21日 有

(ら)計画権力V

試験区 15 a 対照区 15 a) 試験面積 30 a (

	試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	
6月18日	ベネビアOD	2,000	30 hr	6月18日	モスピラン(顆粒水)	2,000	30hh	
	カスミンボルドー(水)	1,000	30 hy hy		カスミンボルドー(水)	1,000	30 אין	
	シグナムWDG	1,500	30 th		ファンタジスタ(顆粒水)	3,000	30 ۲%	

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
刈象炳舌虫	発生状況	試験区	対照区	
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない	
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

両区とも同等の効果が得られた。

5.評価

(1)資材の評価

١.	,				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等 実用性 対象区と同等 使いやすさ 対象区と同等

にんにく殺虫剤

ベネビアOD

防除効果の確認。 1.試験目的 アブラムシ類・アザミウマ類・ネギコガ 2. 対象病害虫 3. 試験内容 弘前市大和沢 (1)実施場所 (2)実施農家 やさい育苗センター (4)担 当 者 奈良 浩照 (3)実施支店 育苗係 (5)概 要 作物名 畑園試系 にんにく 品 種 作 型 栽植密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm 播種・定植日 9月15日 (10a当たり 14800 本) 播種 マルチ使用 有 収穫始め 6月19日 (6)試験構成 試験面積 試験区 15 a 対照区 30 a 15 a) 試験区 対照区 a当 a当 散布日 倍数 散布日 薬剤名 倍数 薬剤名

散布量

2,000

1,000

1,500

150 / 6月11日 モスピラン顆粒水和剤

アグリマイシン水和剤

シグナムWDG

6月11日 ベネビアOD

アグリマイシン水和剤

シグナムWDG

(1)防除効果

4. 試験結果

対象病害虫	防除前	防除後袖	皮害状況
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

2,000

1,000

1,500

散布量

150%

(3)農家の意見

登録も広くとてもいい農薬

5.評価

(1)資材の評価

١ _	/				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性有

使いやすさ 同等

2.対象病害虫 アザミウマ類・ネギコが

3. 試験内容

(1)実施場所 藤崎町中野目 (2)実施農家 藤崎営農組合

(3)実施支店 藤崎支店 (4)担 当 者 佐藤 琉乃介

(5)概 要

作物名 にんにく 品種 白玉王

作 型 栽植密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm

播種・定植日 <u>定植</u> ・ 9月22日 (10a当たり 14800 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月26日

(6)試験構成

試験面積 80 a (試験区 50 a 対照区 30 a)

	試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	
5月22日	ディアナ(SC)	2,500	250 ነ።	5月22日	ハチハチ (乳)	1,000	250 "	
	アグリマイシン(水)	1,000			アグリマイシン(水)	1,000		
	アミスター20(F)	2,000			アミスター20(F)	2,000		

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区	
アザミウマ類	無	無	無	
ネギコガ	無	無	無	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区と差はなかった

5.評価

(1)資材の評価

` .					
	項目	散布効果	1 室田性	ほうしゅすさ しょうしょう かんしょう しょく しょく かんしょ しょく しょく しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゃ し	総合評価
L	グロ	15 VI VI VI	₹/11 IZ	皮いでする	総口計画
	評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果問題なし。

実用性対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

防除効果の確認 1.試験目的 アザミウマ類、ネギコガ 2. 対象病害虫 3. 試験内容 弘前市大和沢 (2)実施農家 (1)実施場所 やさい育苗センター (4)担 当 者 奈良 浩照 (3)実施支店 育苗係 (5)概 要 作物名 畑園試系 にんにく 品 種 作 型 栽植密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm 播種・定植日 9月15日 (10a当たり 14800 本) 播種 6月19日 マルチ使用 有 収穫始め (6)試験構成 試験面積 試験区 15 a 対照区 15 a) 30 a 試験区 対照区 a当 a当 散布日 倍数 散布日 倍数 薬剤名 薬剤名 散布量 散布量

150 | 5月23日 | 八チハチ乳剤

アグリマイシン水和剤

テーク水和剤

4. 試験結果

(1)防除効果

5月23日 ディアナSC

アグリマイシン水和剤

テーク水和剤

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区	
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない	
ネギコガ	無	無	無	

2,500

1,000

600

(2)薬害の発生

1,000

1,000

600

150%

無

(3)農家の意見

5.評価

(1)資材の評価

٠.	,				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 問題なし

実用性有

使いやすさ 同等

防除効果の確認。 1.試験目的 2. 対象病害虫 オオタバコガ 3. 試験内容 百沢字裾野 (2)実施農家 小田桐 浩治 (1)実施場所 下山 喜美 (3)実施支店 岩木支店 (4)担 当 者 (5)概 要 作物名 種 とうもろこし 品 恵味 作 型 栽植密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm 播種・定植日 播種 (10a当たり 2500 本) マルチ使用 無 収穫始め 8月3日

試験区			対照区				
散布日	薬剤名	倍数	aヨ 勘本豊	散布日	薬剤名	倍数	aヨ 勘本豊
7月15日	ディアナSC	5,000	200 hh	7月15日	アファーム乳剤	2,000	200 hi
	モスピラン(顆粒水)	4,000			モスピラン(顆粒水)	4,000	

試験区

50 a

4. 試験結果

(1)防除効果

(6)記録値か

試験面積

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
	発生状況	試験区	対照区	
オオタバコガ	多い	少ない	少ない	

100 a

(2)薬害の発生

対照区

無

50 a)

(3)農家の意見

対象区と同等

5.評価

(1)資材の評価

١.	/ 1				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性新たな系統の農薬として基準防除に取り入れたい

使いやすさ 対象区と同等のため



1.試験目的 防除効果の確認。
 2.対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 常盤野字上黒沢 (2)実施農家 佐藤 好和

(3)実施支店 岩木支店 (4)担 当 者 下山 喜美

(5)概 要

作物名 とうもろこし 品種恵味

作 型 栽植密度 畦幅 <mark>65</mark> cm 株間 <mark>45</mark> cm

播種・定植日 <mark>播種 5月25日 (10a当たり 2500 本</mark>)

マルチ使用 無 収穫始め 8月20日

(6) 計 類 横 DV a (試験区 50 a 対照区 50 a)

	試験区				対照区		
散布日	薬剤名	倍数	aョ 勘本島	散布日	薬剤名	倍数	aヨ 勘本豊
7月18日	ディアナSC	5,000	200 ให้	7月18日	フェニックス (顆粒水)	4,000	200 ให้
	モスピラン(顆粒水)	4,000			モスピラン(顆粒水)	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
	発生状況	試験区	対照区	
オオタバコガ	多い	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5.評価

(1)資材の評価

/ 1			· ·	
項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性新たな系統の農薬として基準防除に取り入れたい

使いやすさ 対象区と同等のため



ヨーバルフロアブル

防除効果確認 1.試験目的 2. 対象病害虫 オオタバコガ 3. 試験内容 常盤野字上黒沢 (2)実施農家 佐藤 好和 (1)実施場所 (3)実施支店 佐藤 好和 (4)担 当 者 下山 喜美 (5)概 要 作物名 とうもろこし 種 品 恵味 作 型 栽植密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm 播種・定植日 播種 5月21日 (10a当たり 2,500 本) 無 マルチ使用 収穫始め (6)試験構成 試験面積 100 a 試験区 50 a 対照区 50 a)

н • • •		(/
	試験区				対照区		
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
7月8日	ヨーバルフロアブル	5,000	200 hi	7月8日	フェニックス(顆粒水和剤)	4,000	200 hh
	ウララDF				ウララDF	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
对象极苦 虫	発生状況	試験区	対照区	
オオタバコガ	多い	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5.評価

(1)資材の評価

` .					
	項目	散布効果	1 室田性	ほうしゅすさ しょうしょう かんしょう しょく しょく かんしょ しょく しょく しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゃ し	総合評価
L	グロ	15 VI VI VI	₹/11 IZ	皮いでする	総口計画
	評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果あり

実用性あり

使いやすさ 対象区と同等のため

ヨーバルフロアブル

1.試験目	的	防除効果研	笙認	ĵ								
2. 対象病	害虫	オオタバコ	」ガ	ĵ								
3.試験内:		百沢字裾野	7			(2)実	孫施農家		齊蔣	後		
(3)実施。		岩木支店					当者		下山			
(5)概 作物	要 I 名	とうもろこ	ΞU	,		<u> </u>	品 種		恵味			
作	型					栽	植密度		畦幅 65	cm ħ	株間 4	5 cm
播種•	定植日	播種		5月23	日				(10a	当たり	2,50	0 本)
マルき	チ使用	無				ЦУ	(穫始め		8月18日			
(6)試験村 試験	構成 食面積		0	a (試	験区	a		対照区		a)	
	_	試験区					_		対照区			
散布日		薬剤名		倍数	a当 散布量	散布日		薬剤	名	倍数	a当 散布量	型
7月23日	ヨーバル	ノフロアブル		5,000	200 ให้	7月23日			顎粒水和剤)	4,000	200 h	ツ ル
	モスピラ	ラン(顆粒水))	4,000			モスピラ	ラン (顆粒水)	4,000		

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況			
以 家枫苦玉	発生状況	試験区	対照区		
オオタバコガ	多い	少ない	少ない		

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5.評価

(1)資材の評価

`	7				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性あり

使いやすさ 対象区と同等のため

効果確認 1.試験目的 2. 試験内容 (1)実施場所 藤崎町 柏木堰 (2)実施農家 工藤 理絵 (4)担 当 者 鳴海 (3)実施支店 藤崎支店 清志郎 (5)概 ピーマン 作物名 品 種 京まつり 作 型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm 播種・定植日 定植 5月21日 (10a当たり 1100 本) マルチ使用 7月2日 有 収穫始め (6)試験構成 試験面積 試験区 **4** a 対照区 **4** a 8 a

	試験区			対照区				
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	
6月20日	トルキャップ	1,000	20 ¹ 12					
6月30日	トルキャップ	1,000	25 hu					
7月11日	トルキャップ	1,000	25 hr					
7月21日	トルキャップ	1,000	30ให้					

3. 試験結果

(1)生育状況

(2)収穫状況

【試験区】

【試験区】 良好

良好

【対照区】 良好 【試験区】

(3)農家の意見

散布時にはシナモンの香りがして良い気分で散布できた。無散布区との差はあまり感じられなかった。

4.評価

(1)資材の評価

(/ = = 10				
項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	2	2	3	2

(2)評価の理由

施用効果
散布効果があったのか分からなかったため。

実用性よく分からなかったため。

使いやすさ 一般の葉面散布剤と同様に溶けやすいため。

効果確認 1.試験目的 2. 試験内容 (1)実施場所 平川市 碇ヶ関 (2)実施農家 山田 尚光 (4)担 当 者 寺田 佳洋 (3)実施支店 大鰐支店 (5)概 作物名 ピーマン 京まつり 品 種 作 型 夏秋 栽植密度 畦幅 50 cm 株間 60 cm 播種・定植日 定植 4月30日 (10a当たり 960 本) マルチ使用 6月10日(個選) 有 収穫始め (6)試験構成 対照区 試験面積 試験区 4 a 3 a) 7 a 試験区 対照区 a当 a当 薬剤名 散布日 倍数 散布日 薬剤名 倍数 散布量 散布量 5月15日 トルキャップ 500 20以 5月15日 液体ハイカルック 1,000 20以

3. 試験結果

(1)生育状況

(2)収穫状況

【試験区】

普通

【試験区】

普通

【対照区】

普通

【対照区】

普通

(3)農家の意見

どちらも同等

4.評価

(1)資材の評価

(/ = = = = = = = = = = = = = = = = = =				
項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果

対照区と同等のため。

実用性

対照区と同等のため。

使いやすさ

対照区と同等のため。

1.試験目的	防除効果の確	認							
2.対象病害虫	アザミウマ類	頁, ジ <i>=</i>	ιウシホ	シクビ	ナガハムシ				
3.試験内容									
(1)実施場所	藤崎町矢沢			(2)実	施農家	新名	予 勝博	•	
(3)実施支店	和徳支店			(4)担	!当 者	身	₹ 荘		
(5)概 要									
作物名	アスパラガス			品	ı 種	スーパー	ウェルス	りム	
作 型	ハウス立茎			栽	植密度	畦幅 170	cm 🗚	朱間 45	cm
播種・定植日	•					(10a	a当たり		本)
マルチ使用	無			ЦΣ	(穫始め	3月25日			
(6)試験構成									
試験面積	6	a (試馬	検区	3 a	対照区	3	a)	
	試験区					対照区			İ
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤	削名	倍数	a当 散布量	
6月17日 グレー	シア乳剤	2.000	20นุม	6月17日	モスピラン	顆粒水溶剤	4.000	20 ไม่ม	l

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況			
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区		
ジュウシホシクビナガハムシ	普通	少ない	少ない		
アザミウマ類	普通	少ない	少ない		

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

他の害虫にもよく効いていた。 ローテーションの薬剤の一つとして使用したい。

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等のため。実用性対照区と同等のため。

使いやすさが照区と同等のため。

1.試験目的	防除効果の確認	0					
2.対象病害虫	アザミウマ類、	ジュウ	シホシクビナガ	ハムシ			
3. 試験内容	大鰐町 苦木		(2)字族即	典字	ct m	勝也	
(1)実施場所	人		(2)実施鼎	長多	成田	膀也	
(3)実施支店	大鰐支店		(4)担 当	者	寺田	佳洋	
(5)概 要							
作物名	アスパラガス		品	種	ゼンユウガリ	ノバー	
作 型	夏秋		栽植智	密度	畦幅 <mark>70</mark> cm	n 株間 1	0 cm
播種・定植日	•				(10a当	たり 1,470) 本)
マルチ使用	有		収穫如	冶め			
(6)試験構成							
試験面積	10 a	(試験区 5	a	対照区	5 a)	

	試験区				対照区				
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量		
7月15日	グレーシア乳剤	2,000	20 ¹	7月15日	ディアナSC	2,500	על 20 אין 20 20		
	フルピカフロアブル	2,000	20 hh		フルピカフロアブル	2,000	על <mark>20</mark>		

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後袖	皮害状況
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区
ジュウシホシクビナガハムシ	少ない	無	無
アザミウマ類	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

防除効果は同等だった。

5.評価

(1)資材の評価

١.	7				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等のため。

実用性対象害虫が広いため。

使いやすさ対照区と同等のため。

アクセルフロアブル

1.試験目的]	防除効果の	の確	認							
2. 対象病害	虫	オオタバ	コガ	ĵ							
3.試験内容 (1)実施場		弘前市津	当野	7		(2)宝	施農家	成日	日 茂昭		
(1) ~ 118-33	771	J4 65 (67)	~ <u>-</u> ,			(~)~		7-20	4 /~~H		•
(3)実施支	店	和徳支店				(4)担	!当 者	松區	可 巧子		
` '	要										
作 物	名	ピーマン				듄	i 種	京まつり			
作	型	夏秋				栽	植密度	畦幅 70	cm 🛧	朱間 60	cm
播種・浸	定植日	定植	•	5月8				(10a	a当たり	1100	本)
マルチ	使用	有				ЦΣ	(穫始め	6月15日			
(6)試験構	成										
試験	面積		4	a (試馬	検区	2 a	対照区	2	a)	
		試験区						対照区]
散布日		薬剤名		倍数	a当 散布量	散布日	荛	薬剤名	倍数	a当 散布量	
8月11日	アクセル	フロアブル		2.000	20 ใน	8月11日	コテツフロ	コアブル	2.000	20 ประเท	

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況			
	発生状況	試験区	対照区		
オオタバコガ	普通	少ない	少ない		

2,000

(2)薬害の発生

2,000

アフェットフロアブル

無

(3)農家の意見

どちらも効いていたのでよかった。

アフェットフロアブル

5.評価

(1)資材の評価

٠.	,				
	項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
	評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等のため。

実用性ローテーション剤として有効。

使いやすさが照区と同等のため。

1.試験目	目的	防除効果	の確	記									
2. 対象症	房害虫	オオタバ	コナ	j									
3.試験内	內容												
(1)実施	場所	弘前市糠	坪			(2)宴	[施農家		棟方	利明			
(3)実施	支店	弘前西支	店			(4)担	当者	i	福日	日 静			
(5)概	要												
作:	物 名	ピーマン				티	君	万	まつり				
作	型	半促成				未	战植密度		哇幅 70	cm 🗚	朱間	60	cm
播種	・定植日	定植	•	5月4	日				(10a	当たり	110	00	本)
マル	チ使用	有				47	双穫始め	6	月14日				
(6)試験	構成												
	験面積		4	a (試	験区	2 a		対照区	2	a)	
		試験区						対!	照区				
散布[∃	薬剤名		倍数	a当 散布量	散布日		薬剤名		倍数	aì 散布		

2,000 | 300ポ | 6月27日 | コテツフロアブル

アフェットフロアブル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況			
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区		
オオタバコガ	普通	少ない	少ない		

2,000

300以

(2)薬害の発生

無

2,000 300 hu

300hr

2,000

(3)農家の意見

どちらも効いていた。

6月27日 アクセルフロアブル

アフェットフロアブル

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等

実用性ローテーション剤として有効

使いやすさ 対照区と同等

1.試験目的	防除効果の確認。		
2.対象病害虫	モモシンクイガ		
3.試験内容			
(1)実施場所	原ケ平	(2)実施農家	小林 範芳
(3)実施支店	弘前東支店	(4)担 当 者	三浦 湧太
(5)概 要			
作 物 名	桃	品 種	川中島、あかつき
樹 龄	8年	栽植密度	7 m × 7 m 20 本/10a
開 花 日	4/20.4/19	収穫始め	8/20.8/6

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

	試験区				対照区		
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月21日	オリオン水和剤	1,000	400 ให้	6月21日	エクシレル(SE)	5,000	400 ให้
	マイコシールド	2,000			マイコシールド	2,000	
	チオノック(F)	500			チオノック(F)	500	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区	
モモシンクイガ	無	無	無	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。りんごでも使用しているため、殺虫剤は分けなくてもいい

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等のため。

実用性 ジアミド3回入っていたりするので、使用回数を減らせていいと思う

使いやすさが照区と同等のため。

1.試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 モモシンクイガ

3. 試験内容

(1)実施場所 唐牛 (2)実施農家 小竹 重喜

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担 当 者 北山 銀之将

(5)概 要

作物名 桃 品 種 あかつき、川中島白桃

樹 齢 **20**年 栽植密度 **7** m × **7** m 20 本/10a

開 花 日 あかつき4/23、川中23 収穫始め あかつき8/6、川中20

(6)試験構成

試験面積 30 a (試験区 20 a 対照区 10 a)

	試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	
6月11日	オリオン水和剤	1,000	400 เก	6月11日	エクシレルSE	5,000	400 ให้	

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後被害状況		
刘家枫苦玉	発生状況	試験区	対照区	
モモシンクイガ	少ない	少ない	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

特に問題はなかった。りんごでも使っているので安心して使えた。

5.評価

(1)資材の評価

7				
項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	4

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等のため。

実用性対照区と同等評価のため、ジアミド剤の回数を減らすためにも良い。

使いやすさが照区と同等のため。

R5・継続

1.試験	目的	防除効果の確	認						
2.対象	病害虫	黒星病、せん	,孔細菌	病、果穿	E赤点病	i			
3.試験(1)実施		糠坪			(2)実	施農家	河起	<u>地</u> 一之	
(3)実施		弘前北支店			` ,	!当者	成田		
(5)概 化	要 F 物 名	桃			品	i 種	川中島		
村	討 龄	9年			栽	植密度	7 m ×	8 m	17.85714288 本/108
	引花 日	4月20日			ЦΣ	(穫始め	8月22日		
(6)試 記	検構成 試験面積	20	a (試馬	東区	10 a	対照区	10	a)
		試験区					対照区		
散布	日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤	到名	倍数	10a当 散布量
5月30		ナ水和剤	1,000	300¦%	5月30日	スターナ水		1,000	300 1%
	ペンコ1	ヹヹ水和剤	600	300hh		チオノック	F	500	300 1%

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前	防除後袖	皮害状況
以 家枫苦虫	発生状況	試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性同等

使いやすさ 同等

1.試験目的	গ	防除効果の確	主認							
2.対象病害	宇虫	黒星病・せん	孔細菌:	病・果実	『赤点病	į				
3.試験内容 (1)実施場	•	鬼沢			(2)実	施農家	神	幸人		
(3)実施支	店	弘前北支店			(4)担	!当 者	成日	日 将平		
(5)概作物		桃			品		川中島			
樹 開	齢 を日	12 年 4月20日				植密度 【穫始め	7 m × 8月20日	7	20 本	/10a
(6)試験構 試験	面積	10	a (試馬	负区	5 a	対照区	5	a)	
		試験区					対照区			
散布日		薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	漢	剤名	倍数	10a当 散布量	
5月29日	バリダシ	ソン5(液)	500倍	500ให้	5月29日	バリダシン	/5(液)	500倍	500 ให้	
	ペンコセ	ヹ゙ブ(水)	600倍	500 ¹ 1 %		チオノック	7(F)	500倍	500 ¹ / ₂	

4.試験結果

(1)防除効果

ダイアジノン(水)

対象病害虫	防除前	防除後袖	皮害状況
以 家枫苦虫	発生状況	試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

1000倍 500以

(2)薬害の発生

ダイアジノン(水)

無

1000倍 500以

(3)農家の意見

チオノック一辺倒だから選択肢としてあったほうがいい。

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性同等

使いやすさ 同等

1.試験目的	防除効果の確	認						
2.対象病害虫	せん孔細菌病							
3.試験内容								
(1)実施場所	笹舘		(2)実	施農家	増日	日剛		
(3)実施支店	弘前北支店		(4)担	当 者	成田	将平		
(5)概 要								
作物名	桃		品	種	川中島白村	兆		
樹 龄	15 年		栽	植密度	8 m ×	8 m	15.625 本/1	0a
開 花 日	4月20日		収	穫始め	8月20日			
(6)試験構成								
試験面積	10	a (試験区	5 a	対照区	5	a)	
	試験区				対照区			
#h /- □	带刘夕	/立 ※h 10a	当	₹. 1	u 47	/立 米/-	10a当	

	試験区				対照区		
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月6日	ICジンク水和剤	1,000	300 hy	5月6日	アグリマイシン-100	1,500	300hh

4.試験結果

(1)防除効果

	防除前	防除後衫	皮害状況
以	発生状況	試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

昨年に比べて若干出たがそれでも少ない。

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	5	4

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性無機銅剤と違い混用の幅もある。

使いやすさ 無機銅剤と違い葉やSSの汚れが少ない。

(3)その他特記事項

若干、元葉の黄変落葉は見られた。

1.試験目的	防除効果の確	認						
2.対象病害虫	せん孔細菌病	i						
3. 試験内容								
(1)実施場所	原ケ平			(2)実	施農家	小村	ト 範芳	
(3)実施支店	弘前東支店			(4)担	. 当 者	三浦	i 湧太	
(5)概 要								
作物名	桃			品	ⅰ 種	川中島、	あかつき	_
樹 齢	8年			栽	植密度	7 m ×	7 m	20.40816327 本/10a
開 花 日	4/20.4/19			ЦΣ	(穫始め	8/20.8/6		
(6)試験構成								
試験面積	10	a (試馬	検区	5 a	対照区	5	a)
	試験区					対照区		
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	7	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月16日 ICジン	ソク	1,000	350ให้	5月16日	マイコシ	ールド	2,000	350 ト゚ス゚

4.試験結果

(1)防除効果

	防除前	防除後被害状況		
以	発生状況	試験区	対照区	
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない	

1,000

1,000

(2)薬害の発生

1,000

1,000

ダコニール1000(液)

ダイアジノン(水)

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。来年も試験したい。

ダコニール1000(液)

ダイアジノン(水)

5.評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果対照区と同等のため。

実用性 開花期以降の抗生物質(アグリマイシン、マイコシールドあたり)の使用を減らせる

使いやすさ 高温時の散布は避けないといけない為、使用時期が絞られる

1.試験目的	防除効果の確認		
2.対象病害虫	モモシンクイガ		
3.試験内容			
(1)実施場所	藤崎町白子	(2)実施農家	田中義信
(3)実施支店	藤崎支店	(4)担 当 者	佐藤 琉乃介
(5)概 要			
作 物 名	桃	品 種	川中島白桃
樹 龄	15 年	栽植密度	7 m × 8 m 17.85714288 本/10a
開 花 日	4月20日	収穫始め	8月25日

(6)試験構成

試験面積 60 a (試験区 40 a 無処理区 20 a)

試験区					対照区			
設置日	薬剤名	設置本数	10a当 本数	設置日		薬剤名	設置本数	10a当 本数
5月14日	コンフューザーR	200	50	_	無処理		0	0

4.試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	設置後	設置後被害状況			
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区		
モモシンクイガ	無	無	無		

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5.評価

(1)資材の評価

項目	設置効果	対象害虫に対する実用性	総合評価
評価	3	4	3

(2)評価の理由

設置効果 効果は同等だったため

実用性効果は同等だったため

使いやすさ 100本 / 10aの設置なので掛ける本数と手間が多い

(3)その他特記事項

フェロモントラップを設置しているが、捕獲数は0であった。

1.	試験目的	勺	防除効果	の確	認										
2 .	対象病語	害虫	モモシン	クイ	゚ガ、	ナシ	ノヒメシ	ノンクイ							
	試験内容 1)実施場		糠坪					(2)事	:施農家			河起	<u>地</u> 一之		
`	3)実施支		弘前北支	吉				` ,	当者			成田			
(!	5)概 #= 4	要 勿 名	桃					品	. 種		川中島	巨白	* 71k		
	樹	齢	9年						植密度		7 m	×	8 m	17.85714288 本/	/10a
	開着	花 日	4月20日					ЦΣ	!穫始め		8月22	2日			
((6)試験 積 試験	請成 :面積		20	a	(試馬	東区	10 a		無処理	里区	10	a)	
			試験区								対照区				7
	設置日		薬剤名		設置本	数	10a当 本数	設置日		薬剤	名		設置本数	10a当 本数	
	5 H 10 D	コンノフ・	- # D		10	Ω	100		無加爾				0	Λ	

4.試験結果

(1)防除効果

1 / 1971/97 / 1					
対象病害虫	設置後	設置後被害状況			
对象例告 虫	発生状況	試験区	対照区		
ナシヒメシンクイ	無	無	無		
モモシンクイガ	無	無	無		

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5.評価

(1)資材の評価

項目	設置効果	対象害虫に対する実用性	総合評価
評価	4	4	4

(2)評価の理由

設置効果

良

実用性

良

使いやすさ 手間ではある

(3)その他特記事項

フェロモントラップを設置したが捕獲数は0であった。